



デジタル教材を導入したいが、どうすればいい？
コストもスキルもハードルが高い…、と
お考えの先生方に！

採用校に
聞きました！

デジタル教科書導入・活用

東奔西走記 Vol.1

鳳凰高等学校 看護学科統括部長 大江 伸吾



デジタル ナーシング・グラフィカ 導入までの道のり

はじめまして、鹿児島県の鳳凰高等学校の大江伸吾と申します。今回から、デジタル看護教科書®の採用校という立場で、デジタル教科書を導入して良かったことや導入前の困難、導入後の運用などを、実体験に基づいてあらゆる角度からご紹介します。まずは、簡単な学校紹介からさせていただきます。本校は、創立65年を迎える、全校生徒約1,500名の私立高校です。商業系のメディカルシステム科、介護福祉士を目指す総合福祉科、複数のコースを持つ普通科、そして私の所属する看護学科の4学科で構成されています。中でも看護学科は1学年の定員が200名で、5年課程であることからキャンパス内では1,000名以上の未来のナースが学んでいることになります。私は看護学科統括部長を務めており、基礎課程(高校の課程)と、専門課程(高校卒業後の課程)との両方を統括しています。

そんな本校ですが、2018年度から教科書として、デジタル看護教科書®「デジタル ナーシング・グラフィカ」を採用しました。デジタル教科書の導入に舵を切ったのには、大きな2つの理由がありました。

ICT教育への対応—導入前の本校の状況—

ご存じのように、アナログからデジタルへ社会が大きく変化、進化するとともに、教育界にもその流れは押し寄せてきました。その一方で、ハード面での環境整備はもちろん、教員の知識・技術ともに不足していたというのが恥ずかしながら本校の実情でした。例えば、「クラウド」という言葉を知らない教員も多く、データ管理はUSBメモリなどの物理的な機器が当たり前。教員一人ひとりがICT教育を実現するにはほど遠い状況でした。また、SNSの問題やインターネット依存などへの懸念から、通信可能なデジタル端末にあまり良い印象を持っておらず、授業で活用することに抵抗を持っていた教員も少なくありませんでした。

そんな中、危機感を持つ教職員を中心に、タブレット等を用いたICT教育で育った受験生から選択してもらえる学校であるためにさまざまな意見を交わしました。試行錯誤の結果、半ば強制的にデジタル端末を使わざるを得ない環境を作ることになりました。まずは、全入学生にタブレットを準備し、生徒・保護者とのコミュニケーションツール(本校では「Classi」)を導入しました。学習の記録(日誌等)だけでなく、さまざまな保護者向けのお知らせにも活用するために、教職員研修を重ねました。

ご回覧



デジタル教科書による学習効果向上の期待 —紙面では理解しづらい人体の仕組み—

人体の構造や仕組みを理解させるには、紙の教材だけでは限界があります。デジタル教科書の導入前はイラスト等を駆使したプリントを作成したり、DVD等の映像教材を用いたり、生徒の理解を深めるためにさまざまな工夫をしていましたが、その準備等により教員には大きな負担を強いていました。実習指導と併行しながらの業務に加え、クラス担任としての役割も求められる現状に疲弊している職員も多かったように感じます。また、視聴覚機器やそのための教室を確保するため、経費的にも学園に無理をお願いしていました。

臨地実習や国家試験を踏まえた学力・看護観の養成、また教員サイドの効率化という意味でもデジタルメディアの積極的活用は必須の検討事項でした。

かくして、導入への準備が始まったわけですが、抵抗感のある教職員も多く、研修やデモンストレー

ションを繰り返し、少しずつ理解・協力を得ていくこととなります。そのあたりの詳細は次回紹介させていただきます。この記事がデジタル教科書の導入を検討されている学校の参考になれば幸いです。



ご意見・ご感想をお聞かせください

よりお役に立つ内容にしていくため、ご意見・ご感想がございましたらご自由にご記入いただき、FAXにてご送信ください。

FAX:06-6398-5081 ⚠ FAX番号のおかけ間違いにご注意ください

お問い合わせ

MC 株式会社 **メディカ出版** 基礎教育営業課
〒532-8588 大阪市淀川区宮原3-4-30 ニッセイ新大阪ビル16F

TEL : 06-6398-5039
Mail : info-dng@medica.co.jp